

拝啓

予而倉知君迄御懇命相成居候常玉鐵道ノ件ニ闕シ今般別紙ノ通り同君ヨリ來状有之候間御一覽相願度候 勿々敬具

(附屬書)

写

大正二年十二月五日

北 京

倉 知 鐵 吉

中國興業株式会社

尾崎專務取締役殿

拝啓陳者常玉鐵道ノ件ニ付テハ今回森恪氏ノ上京ヲ機トシ同氏ト協議致候処同氏ノ手ニテ最近ニ手裏出来候趣ニ有之候間今回中國興業会社ニ対スル北京政府ノ態度一変セント同時ニ何等カノ發展ヲナスヤモ難料ト存候ニ付予メ御含ミ置相願度工費ハ工事ノ困難ナル為哩數ノ割合ニ高額ト可相成或ハ三四万円(?)^(原文ノ儘)トナルヤモ難期ト存候尤モ右ハ一時ニ必要ナル次第ニ無之ハ勿論ニ御座候尚又今回ノ在燕ヲ機トシ山座公使及平井博士ニ常玉線ニ対スル我希望ヲ内陳致候處上海方面ニテ話纏マリタルトキハ中央政府ヨ

リ承認ヲ得ルコトニ付テハ必ス十分尽力セラルベキ旨御承諾有之候間是又御含ミ相願度候

早々敬具

三 南 潤 鐵 道

六九七 二月三日 在上海有吉總領事ヨリ

南潯鐵道借款取引完了了報告並吳端伯ノ借用金

二閑スル措置ニ付請訓ノ件

機密第一三号

大正二年二月三日

在上海

總領事 有 吉 明(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

江西借款受渡シ結了之件

東亞興業会社ヨリ南潯鐵路公司ニ係ル五百万円借款引渡シニ闕シテハ同公司内部ノ事情ト特ニ最近ニ至テハ吳端伯力表面同公司ヨリ借用ノ姿トナリ居レル五万兩決済方ニ闊聯シテ久敷行惱ミト相成居再三御訓令ノ次第モ有之成ルヘク

速カニ解決方相試ミ候得共右五万兩ノ金額ハ事實同会社ニ對スル反対運動者ニ支給セラレタルモノ、趣ニテ強テ吳端伯ヲノミ責ムヘキ筋ニモ無之カ如ク結局当事者タル吳ト公司間ニ於テ何トカ決了セシムルノ外ナシト相認メ依テ一方極力吳ヲ説得シテ十分ニ犠牲ヲ払ハシメ他方公司側ニモ利害ヲ説キテ折合ヒヲ附ケシムルコトニ尽力セル処其間第三者ノ容喙等ニ依リ種々紛糾セル事情ヲ生シ甚敷遲延ヲ見ルニ至リタルハ甚タ遺憾トスル処ナルモ兎モ角本月一日当事者間ニ無滞取完了スルニ立至リ候右詳細ハ東亞興業会社ヨリノ報告ニテ御承知相成候様致度候

右取引完了ニ就テハ當時電報ニテ申進置候大成工商会社ト日本興業銀行間契約第八条株式供托承認文及ヒ同第十一条ニ依リ供托ノ大成工商会社ト鐵路公司間契約本書同行ヨリ御査収ノ上一括至急郵送相煩度候

將又電報ヲ以テ不取敢申進置候如ク右受渡方ニ就テハ極力吳端伯ヲ説キテ少カラサル持チ出シヲ為サシメタル結果同人ヘノ報酬ハ事実僅少ノ額ニ止マル事トナリ過去ニ於ケル同人ニ對スル批難ハ兎モ角モ今次借款ニ対シ一年有余殆ント専心尽力ヲナサシメタル勞ニ対シ甚タ氣ノ毒ノ感モ有之

タ憐ム可キモノアルノミナラス今後鐵道工事問題ハ勿論南

然ルニ東亞興業会社ヨリ代表者江崎台灣銀行支店長ヘノ計算書ニ依レハ興業銀行間契約第三条ニ延滞利息ニ対シ七分ノ利子ヲ附ストアル明文ニ依ル請求金額ハ九千百九十九両〇三トナリ居リ右ハ吳端伯ヨリ既ニ納付済ノ処同條規定通り六分ノ利息ニ対スル延滞利子ハ吳ノ計算ニ依レハ七千五百六十両ニシテ其間不少差アリ右ハ東亞ニ於テ吳カ鐵路公司ヨリ領収スル年七分ノ利息ニ対シテ計算セシモノナルヘシトテ契約ニ依リ右返納方小官迄請求シ来リ事実然リトセハ事情尤モト被存且又吳端伯ト公司間ニ交渉中最後ニ於テ行惱ミトナリタル七千余両解決ノ一手段トシテ陳三立ヨリ旧暦十二月十一日以後ノ利子ヲ免除セラル、様小官ニ於テ取計フニ於テハ右七千余両ヲ自己ノ責任ニテ鐵路公司ニテ負担解決スル様提議スヘキ旨申越其當時速カニ解決方東亞興業ヨリノ請求ハ勿論御訓令ノ次第モ有之多少ノ犠牲ハ止ムヲ得スト相心得小官限リ何分ノ取計方ヲ引受ケ茲ニ一段落ヲ告クルニ立至候モノナル処右ハ東亞代表者タル江崎河野ヨリ打電本社ニ請訓セルニ係ハラス未タ何等ノ指図無之結果吳端伯ニ於テ是亦東亞ニ代納ノ姿ト相成居事情甚タ憐ム可キモノアルノミナラス今後鐵道工事問題ハ勿論南

七 華中及華南鐵道交涉ニ關スル件 六九八

津鐵路其他同地方ニ對スル計画上從來ノ行掛リヨリ同人ヲ
要スル事少カラサル次第ナルニ依リ東亞興業若クハ大藏省
ニ於テ右事情ヲ斟酌シテ何分ノ取計ヒヲ為ス様可然御詮議
相煩度此段報告旁及稟請候 敬具

追而本借款受渡決了ノ旨ハ不取敢參考トシテ伊集院公使
芳沢總領事ニ電報致置候右申添候也

註 東亞興業株式會社ヨリノ三月一日附報告後掲

六九八 二月十三日 在上海有吉總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

南潯鐵道百萬兩借款ニ關スル興業銀行ト上海

大成工商会社トノ契約解除ノ件

(二月十九日接受)

機密第一九号

大正二年二月十三日

在上海

總領事 有 吉 明(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

江西南潯鐵路公司ト東亞興業會社トノ間ニ成立シタル金五
百万円借款契約書ハ客年八月七日付機密第六五号(北京公
使、漢口總領事ヘハ公領機第五七号)ヲ以テ及送付置候處

間ニ締結記名調印セラレタル江西鐵路公司借款ニ關スル日
本興業銀行ト大成工商会社間上海規銀壹百万兩ノ借款契約
ヲ解除シ之レカ証左トシテ解約証書參通ヲ作成シ各々日華
両文ニ認メテ一ヲ日本興業銀行ニ一ヲ大成工商会社ニ他ヲ
在上海日本總領事館ニ保存スルモノトス

大正弐年正月廿九日

中華民國弐年正月廿九日

日本興業銀行總裁添田壽一代理人

江 崎 真 澄(印)

上海大成工商会社總理

吳 端 伯(印)

右本官ノ面前ニ於テ誠実ニ記名調印セラレタルコトヲ證明
ス

大正弐年正月廿九日

在上海日本總領事 有 吉 明(印)

(右漢文)

写

茲將解除上海大成工商會社與日本興業銀行所訂立之江西

鐵路公司借款合同事聞載於後

七 華中及華南鐵道交涉ニ關スル件 六九九

七八六

其後前借款ノ償還方法及借款金引渡問題ニ關シテハ電報又
ハ公信ヲ以テ及報告タル如ク当初彭監督及俞軍務司長等ノ
來滬次テ借款引受ノ為劉程ニ委員ノ來滬アリ種々ナル事
情ノ為メ久敷行惱トナリ其間幾多ノ曲折ヲ經タルモ結局既
電ノ如ク去月二十九日別紙写ノ通り本鐵道ニ關スル興業銀
行ト上海大成工商会社トノ間ニ締結シタル百万兩ノ前借款
償還トナリ右契約ヲ解除シ茲ニ前借款ニ關シ吳端伯トノ関
係ヲ断テ一段落ヲ告ケ東亞興業會社ヨリ南潯鐵路公司ニ對
スル借款引渡モ既電ノ通り二月一日ニ終了致候

右本件借款契約解除報告旁此段申進候 敬具
追テ本信写ハ北京公使及漢口總領事ニ及送付候

(別 紙)

写

江西鐵路公司借款ニ關スル日本興業銀行上海

大成工商会社間解約書

日本興業銀行總裁添田壽一ハ上海大成工商会社總理吳端伯
ト合意ノ上茲ニ明治四十年參月參拾日即光緒參拾年弐月
拾七日在上海日本總領事永瀧久吉ノ面前ニ於テ上海大成工
商会社總理吳端伯日本興業銀行總裁添田壽一代理人長峰郎
字蓋印之江西鐵路公司借款上海規銀壹百萬兩之合同解除此
項解除合同繕寫中日兩文一式三份一份存日本興業銀行一份
存大成工商會社一份存駐滬日本總領事館以爲憑證

日本興業銀行總裁添田壽一代理人
江 崎 真 澄(印)

上海大成工商会社總理
吳 端 伯(印)

日本興業銀行總裁添田壽一代理人
江 崎 真 澄(印)

本解除合同在本總領事面前以誠意簽字蓋印特此證明
大正二年正月廿九日

六九九 三月一日 古市東亞興業社長ヨリ
牧野外務大臣宛

南潯鐵道五百万円借款ノ経過概要報告ノ件

七八七

附屬書一 明治四十五年七月八日附東亞興業ト南潯鐵路公司トノ借款契約書写

二 二月一日附東亞興業ト日本興業銀行トノ三百万円貸借契約書写

三 二月一日附東亞興業ト日本興業銀行台灣銀行及大倉組トノ二百万円貸借契約書写

附記 三月十日政務局起草ノ南潯鉄道借款問題概要

(三月一日接受)

江西南潯鉄道公司借款ノ件ハ客年四月公司当局者ト当会社取締役白岩竜平トノ間ニ協商ヲ開始シ翌五月二十三日借款総額ヲ金五百万円ト定メ仮契約ヲ締結シ越エテ七月八日本契約ノ締結ヲ了シ候ニ付当会社ハ本契約第一条ノ規程ニ基キ借款受渡実行ノ為メ八月下旬取締役門野重九郎上海ニ出張シタルモ當時鉄道公司ノ内訂其他種々ナル事情ニ因リ借款受渡ヲ見ルニ至ラス爾來遷延ニ遷延ヲ重ネ漸ク年末ニ至リ鉄道公司ハ借款受渡ノ為メ新タニ委員ヲ上海ニ派出シ情況順調ニ向ヒタル處又々鉄道公司ノ前借款百万両ニ対スル

日本興業銀行ト上海大成工商会社トノ間ニ締結シタル契約解除ノ件ニ付不尙混雜ヲ釀シ延イテ新借款受渡ノ進行ヲ阻碍セラレタルモ幸ヒ本年一月二十九日ニ至リ日本興業銀行

追テ為御参考各種契約書写三通相添申候

(欄外註記)

(イ)此三〇〇万円ハ即大蔵省ヨリ支出セルモノニテ其裏旧債百万両ヲ差引タル残額丈支出シタルコト、ナ

ル

(ロ)此五十万円モ三者按分比例ニテ支出セリ

(附屬書一)

写

契約書

江西南潯鉄道有限公司ハ南昌九江鉄道工事ニ資本ヲ需メ辦理スルニ因リ特ニ日本東亞興業株式会社ト資金借入ニ関スル契約ヲ訂立ス其条項左ノ如シ

第一条 本借款ハ日本通貨伍百万円ト定ム契約調印後參ケ月内先ツ参百伍拾万円ヲ交付シ残金壹百伍拾万円ハ工事進行ニ伴ヒ拾四箇月ヲ限リテ全額ノ交付ヲ為スモノトス

第二条 本借款ハ金壹百円毎ニ手取九拾五円トス

第三条 利息ハ六年分五厘トス金子交付ノ日ヨリ起算シ毎年武期ニ分チ上期ヲ六月トシ下期ヲ十一月トシ漢口又ハ上海ニ於テ東亞興業会社ノ指定スル銀行ニ交付スモノトス

第六条 鉄道公司若シ工事受負ヲ為サシメントスル時ハ優先權ヲ東亞興業会社ニ給スヘシ其價格折合ハサルトキハ別処ヨリ購辦スヘシ

七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 六九九

七八九

ト上海大成工商会社トノ間ニ於ケル契約ノ解除ヲ見次テ二月一日新借款受渡ノ運ヒニ至リ之ニ附帶セル細末ノ計算モ亦總テ二月二十五日ヲ以テ終了致候

本件協商開始以来約十ヶ月其間幾多ノ曲折ヲ経タルモ前陳ノ通り終了ヲ見ルニ至リ候ハ当初ヨリ御省並ニ上海有吉総領事ノ御帮助ニ因ル所ト深ク感謝ノ外無之而シテ鉄道公司ニ対シテハ契約書第一条ノ規程ニ基キ総額五百万円ノ内参外式百万円ヲ日本興業銀行、台灣銀行及大倉組ノ三者ヨリ融通ヲ受クルコトトシ之ニ対シテハ当会社ト出資者トノ間ニ(記二様ノ契約ヲ締結シテ現金參百五拾万円ヲ受取り残額百五拾万円ハ必要ノ時マデ利息相殺ノ約束ヲ以テ各預金証書ヲ徵シ次回ヨリノ交付金ニ充当スルコト致置候

右江西南潯鉄道公司借款ノ件ニ關スル顛末御報告旁々奉得貴意候也
大正二年三月一日
東亞興業株式会社
取締役社長 古市公威(印)
外務大臣男爵 牧野伸顯殿

トス

第四条 本借款ハ十五年ヲ期限トシ契約調印ノ日ヨリ起リ第拾年ニ至ル迄ハ只利子ヲ交付シ第拾壹年日ヨリ起リ拾五年ニ至ル五箇年間ニ毎年六月及十二月ニ於テ元金伍拾万円ヲ、利息ト共ニ均分還済ス若シ利子ヲ遲滞シテ交付セサルコト四回ニ及ヒタルトキ及ヒ元利均分還済方遲滞ノ時ニ遇ハゞ即チ第五条ニ照シテ辦理シ暫ク代テ營業ノ管理ヲ行ヒ元利完済ノ日ニ至リテ止ム若シ拾五年ノ期限ニ至リ元利完済スル能ハサルトキハ双方協議ノ上更ニ五箇年繼續スルコトヲ得

本項支払ニ關シ鉄道公司ハ毎期先ツ東亞興業会社ニ元利ヲ支払ヒタル後ニテ株主ニ対スル官利ヲ払渡スモノトス第五条 鉄道全部有スル所ノ機械材料建物及營業收入ノ余利ヲ以テ担保トス
鉄道公司ハ担保品目録ヲ調製シ増減アル毎ニ東亞興業会社ニ通知スルモノトス

第六条 鉄道公司若シ工事受負ヲ為サシメントスル時ハ優先權ヲ東亞興業会社ニ給スヘシ其價格折合ハサルトキハ別処ヨリ購辦スヘシ

七 華中及華南鉄道交渉ニ関スル件 六九九

七九〇

第七条 本借款ノ用途ニ就テハ鉄路公司ニ於テ弊害ヲ剔除シ只事実九江南昌間鉄道建築ニ使用シ他ニ使用スルヲ許サス東亞興業会社ハ隨時他ニ使用スルヤ否ヲ稽察スヘシ

第八条 鉄路公司若シ更ニ資金ヲ続借セント欲スル時ハ予メ先ツ東亞興業会社ニ協議スヘシ

第九条 鉄路公司ハ惟タ東亞興業会社ノ本借款ニ関スル債権ヲ享有スルコトヲ認ム東亞興業会社モ亦タ惟タ鉄路公司ヲ認メ自借自還他ノ干渉ナシ

第十条 鉄路公司借款本ト商辦ノ性質ニ係ル若シ以後中央政府憲法商法ヲ發布シタルトキ又ハ普通法律ニシテ關係アル場合ハ鉄路公司ハ遵辦違背スルヲ得サルモノトス

第十二条 本契約ハ元利完済ノ日ヲ以テ消滅スルモノトス以上条項双方同意各異議ナク既ニ株主總会ノ認可ヲ経又タ都督ニ呈示シ其承認ヲ得テ本契約ヲ訂結シ日支兩文ヲ以テ各四通ヲ繕写ス日支兩文皆正文ニシテ疑義アルニ遇ヘハ両面協議之ヲ決定スルモノトン双方記名調印ノ上各当事者ニ於テ各専通ヲ所有シ總領事館都督ニ各他ノ専通ヲ提出スルモノトス

附 則

時ニ至リ商議ス

三、第一条内拾四箇月ヲ限リ残金ノ交付ヲ為スト記載シアルモ若シ期限内鉄路公司急需ニ遇フトキハ東亞興業会社ハ協議ノ上繰上ヶ交付スルコトアルヘシ又右期限後資金不足ノ場合鉄路公司ハ東亞興業会社ニ向ヒ五拾万円以内ヲ續借スルコトヲ得其利息等ハ總テ本契約ニ準ス

四、鉄道用材料中若シ支那產品ノ用フヘキモノアレハ之ヲ採用スヘシ

五、機械材料ニシテ支那ニ無キ所ノモノハ東亞興業会社ノ手ヲ經テ購辦ス總テ価廉貨美ナルモノヲ取ル若シ品質価格合ハサルトキハ他国ヨリ購辦スルコトヲ得此場合ニ於テモ亦東亞興業会社ノ手ヲ經ルモノトス

六、前項東亞興業会社ノ手ヲ經テ購入シタル機械材料ニシテ歐米製產ノモノハ其商業慣習上ノ五分口錢ハ東亞興業

会社ニ帰スヘシ（五分即百分ノ五）只其価格他処ニ比シ高キヲ得ス

協理 羅兆棟
董事 程学恂
董事 包堯鶴

明治四十五年七月初八日

中華民国元年七月初八日

（附屬書二）

写

東亞興業株式会社ト日本興業銀行トノ三百万

円貸借契約書

株式会社日本興業銀行（以下甲ト称ス）ハ東亞興業株式会社（以下乙ト称ス）ガ支那江西南潯鐵路有限公司ヘ貸付スル資金ヲ貸渡スニ付甲乙間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ金參百万円ヲ乙ニ貸渡シ乙ハ之ヲ借受ケタルモノトス

第二條 借入金ノ利息ハ年四分五厘トシ毎年六月、拾貳月ノ兩度ニ支払フモノトス

第三條 借入金ノ辨済期限ハ拾五年トシ第拾壹年ヨリ第拾五年ニ至ル五年間ニ毎年六月、拾貳月ノ兩度ニ各金

参拾万円宛ヲ弁済スルモノトス

但乙カ江西南潯鉄道有限公司ヨリ契約期限ニ拘ラス弁
済ヲ受ケタルトキハ乙ハ右弁済額ニ相当スル金額ヲ直
チニ甲ニ弁済スルモノトス

第四条 乙ハ江西南潯鉄道公司トノ間ニ締結セル明治四

拾五年七月八日付契約書ニ拠ル金五百万円ノ債権ヲ以
テ本契約ニ拠ル借入金ノ担保トシテ甲ニ差入ル、モノ

トス

第五条 乙カ期限ニ至リ元利金ノ仕払ヲナサ、ルトキハ

甲ハ乙カ前記江西南潯鉄道有限公司ニ対シテ有スル一
切ノ権利ヲ直接ニ行使シ元利金及其権利行使ニ基ク費
用ノ弁済ニ充当シ剩余アルトキハ之ヲ乙ニ交付シ不足

アルトキハ之ヲ乙ニ請求スルコトヲ得ルモノトス

第六条 乙ニ於テ本契約ノ条項ニ違背シタルトキハ期限
ノ利益ヲ失フモノトス

右契約ノ証トシテ本証ヲ作成シ双方記名調印ノ上各自
其庵通ヲ保有スルモノナリ

大正武年式月堯日

株式会社日本興業銀行

総裁 添田寿一

ノ間ニ締結セル明治四拾五年七月八日付契約書ニ拠ル金
五百萬円ノ債権ヲ以テ第壹条借入金ノ担保(順位第壹番)
ト為シ該債権ヲ表示スル社債券ヲ出資会社ニ交付スルモ
ノトス

第四条 借入金ノ利息ハ年八歩トシ毎年六月拾貳月ノ兩度
ニ支払フモノトス

第五条 借入金ノ弁済期限ヲ拾五年トシ第拾堯年ヨリ第拾
五年ニ至ル五年間ニ毎年六月拾貳月ノ兩度ニ各金貳拾万
円ツツ弁済スルモノトス

第六条 東亞興業株式会社カ期限ニ至リ元利金ノ支払ヲ為
サ、ルトキハ出資会社ハ東亞興業株式会社カ前記江西南
潯鉄路有限公司ニ対シテ有スル一切ノ権利ヲ直接ニ行使
シ元利金及其権利行使ニ基ク費用ノ弁済ニ充当シ剩余ア
ルトキハ之ヲ東亞興業株式会社ニ交付シ不足アルトキハ

之ヲ同会社ニ請求スルコトヲ得ルモノトス

第七条 前条ノ場合ニ於テ東亞興業株式会社ハ出資会社ノ
指図アルトキハ出資会社ノ利益ノ為メニ其代理人トナリ
自己ノ費用ヲ以テ前記権利ノ保全及行使ニ付其責ニ任ス
ルモノトス

七 華中及華南鐵道交渉ニ關スル件 六九九

(附屬書三)

東亞興業株式会社

社長 古市公威

東亞興業ト日本興業銀行台灣銀行及大倉組ト
ノ二百万円貸借契約書

東亞興業株式会社ト株式会社日本興業銀行株式会社台灣銀
行株式会社大倉組(以下単ニ出資会社ト称ス)トノ間ニ金
銭消費貸借契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第七条 出資会社ハ金貳百万円ヲ東亞興業株式会社ニ貸附
ケ東亞興業株式会社ハ之ヲ借受ケタルモノトス

第八条 前条ノ貸附金債権ハ不可分トシ其権利ノ保全及行
使ニ付テハ出資会社共同シテ之ヲ行フモノトス

但シ出資会社相互ノ関係ニ於テハ各自ノ権利義務ハ左記
ノ出資額ヲ標準トスルモノトス

一金堯百万円 株式会社日本興業銀行
一金五拾万円 株式会社台灣銀行

一金五拾万円 株式会社大倉組

第参条 東亞興業株式会社ハ支那江西南潯鉄路有限公司ト

第八条 出資会社ハ東亞興業株式会社ニ対スル債権ヲ他ニ
譲渡スルコトヲ得サルモノトス但東亞興業株式会社カ本
契約ニ依テ負担シタル債務ノ履行ヲ怠リタル時ハ此限ニ
非ス

第九条 東亞興業株式会社ニ於テ本契約ノ条項ニ違背シタ
ル時ハ期限ノ利益ヲ失フモノトス

本契約ノ正本ハ株式会社日本興業銀行之ヲ所持シ他ノ出資
会社並ニ東亞興業株式会社ハ該證本ヲ所持スルモノトス

大正二年式月堯日

株式会社日本興業銀行

総裁 添田寿一

株式会社台灣銀行

東京出張所支配人 山成喬六

株式会社大倉組

取締役 門野重九郎

東亞興業株式会社

社長 古市公威

江西省南潯(南昌、九江間)鐵道借款問題概

七九三

要

(三月十日政務局起草)

江西省ハ揚子江流域各省中最物資豊富ナルモノ、一ニシテ隨テ同省ニ於ケル鐵道經營ハ頗ル有望ノ事業タルヲ以テ從來独仏初メ歐米各国人ニ於テ同省鐵道布設権獲得運動ヲ試ミタルコト尠カラズタメニ支那側自身モ大ニ戒心スル所アリ遂ニ明治三十七年(光緒三十年)ニ至リ曾テ在本邦清國公使ノ任ニアリタル江西人李盛鐸等ヨリ同鐵道ノ布設ヲ商部ニ請願シテ裁可ヲ得爾來右鐵道会社ハ清国人一手ヲ以テ資本ノ募集ヲ計画シタルモ目的通り行ハレズ獨仏人等ハ此機ニ乗ジ自ラ資本ヲ供給セントシテ又々運動ヲ開始シタルガ前記ノ如ク本鐵道ハ前途頗ル有望ニシテ其經營如何ハ揚子江流域ニ於ケル我利權ノ消長トモ多大ノ關係ヲ有シ殊ニ其一部ハ南清經營ノ骨子トシテ多年我要求ニ係ル所謂南清鐵道ノ一部ヲモ形成スルモノナルガ故ニ帝國政府ニ於テハ是非共他ヲ排除シテ我レト關係ヲ結バシメンコトヲ欲シ在上海帝國總領事ヲシテ極力斡旋セシムル所アリタル結果明治四十年初ニ至リ江西鐵道中九江ヨリ南昌ニ至ル線路(約八十哩)布設資金ニ供スル為本邦側ヨリ借款ノ希望ヲ同鐵道会社ニ於テ申出ヅルニ至リタルモ當時所謂利權回収ノ風

モ僅ニ九江德安(約三十哩)間ノ完成ヲ見タルノミニテ予期ノ如ク進捗セズ殊ニ明治四十四年五月以降ハ資金欠乏ノタメ全ク工事ヲ中止スルノ已ムヲ得ザルニ至リ会社ハ頗ル窮境ニ陥リタル処客年一月初旬ノ交鐵道側ヨリ我方ニ対シ四五百万円借入方内々申出アリタルニ付此機ニ於テ前記百万両ノ旧債ヲ整理シテ之ヲ我方トノ直接關係トナシ且ハ同

鉄道ト我方トノ關係ヲシテ益々密接ナラシメンガタメ東亜興業会社ヲシテ右借款談ニ応セシムルコトトシ爾來幾多ノ曲折ヲ経テ茲ニ客年五月二十三日仮契約締結セラレ次デ八

月一日(日附ハ七月八日トシタリ蓋シ七月二十五日付ヲ以テ支那政府ヨリ在北京各國公使ニ對シ自今民營鐵道ト雖外國資本ヲ借入レントスル場合ニハ必ズ中央政府ノ許可ヲ要スル旨ノ照会アリタルニ依ル)ヲ以テ大要左ノ通リナル借款契約ノ調印ヲ了シ新借款中ヨリ前記大成關係百万両ノ旧債及未払利子等ノ債務ヲ支払フコト、シ又江西都督ニ於テモ新借款契約ヲ承認シタリ

一、金額五百万円、手取九十五

一、利子年六分五厘、期限十五年

一、右金額中調印後三ヶ月内ニ三百五十万円ヲ交付シ殘額

七 華中及華南鐵道交涉ニ關スル件 七〇〇

ハ鐵道工事ノ進行ニ伴ヒ十四ヶ月内ニ之ヲ交付ス

一、担保鐵道会社所有ノ機械材料建物及營業收入ノ余利

一、東亜興業会社ハ

(イ) 鐵道会社ニ於テ引続キ利子支払ヲ遲滯シ又ハ元利均分還済方遲滯ノ場合ニハ鐵道会社ニ代テ營業ノ管理ヲ行

フ

(ロ) 工事受負、技師推薦及機械材料供給ニ付優先權ヲ有ス
(ハ) 借款用途ヲ隨時稽察スルコトヲ得

(二) 每年一回營業報告書及會計報告書ノ交付ヲ受ク

越ヘテ本年一月二十九日前記旧債一百萬兩借款契約解除手續ヲ終リ二月一日借款一部三百五十万円ノ受渡ヲ了シ之ニ附帶セル細末ノ計算モ亦總テ同月二十五日ヲ以テ終了ヲ告ゲタリ(附圖参照)

註 附圖省略

七〇〇 三月十七日 在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

南潯鐵道ニ中國人技師長及本邦人工夫長傭聘

附屬書 三月十一日附八木書記生ヨリ芳沢總領事宛漢

七九五

公第六三号写

南潯鐵道ニ技師長工夫長傭聘ノ件

公信第九〇号

(三月二十七日接受)

大正二年三月十七日

在漢口

總領事 芳沢謙吉(印)

外務大臣男爵 牧野伸顕殿

本件ニ關シ在九江八木書記生ヨリ別紙写ノ通り報告ニ接シ
候ニ付御参考迄茲ニ及御送付候條委曲右ニテ御了承相成候
様致度別紙相添ヘ此段及御報告候 敬具

追テ本信写伊集院公使並ニ有吉總領事ヘ送付致置候此段
申添候也

(附屬書)

写

漢公第六三号

在九江

外務書記生 八木元八

在漢口

大正二年三月十一日

写

漢公第六三号

在九江

外務書記生 八木元八

大正二年三月十一日

江西南潯鉄路有限公司

七〇二 五月十三日 東亞興業株式会社ヨリ

江西南潯鉄道借款一部引渡並草刈及郡島二東

東亞興業ノ一定事務委嘱ノ件

大正二年五月十三日

東亞興業株式会社

外務省

阿部政務局長殿

江西鉄道借款一部引渡ノ件

江西南潯鉄道借款ノ内去一月一日金參百五拾万円引渡後去

一四月中ニ金五拾万円引渡相受度請求有之候ヘ共少シク交渉

記ヲ要シ候点有之交渉中ノ處去十日上海ヨリ金拾五万円電信

外逆為替相受候ニ付昨十二日予ネテ預リ金ト致シアル分ヨリ

(欄右)金額引渡ノ手続相済マセ置候間左様御承知被成下度候

在九江草刈融氏ニ一部事務取扱委嘱並ニ在南

昌郡島忠次郎氏ニ情形通信委嘱ノ件

江西鉄道借款成立後江西省南昌又ハ九江ニ當社ノ代表員派

遣ノ件ハ社務ノ都合有之未タ其運ニ至ラス候處今般在九江

台灣銀行出張所主任草刈融氏ニ南潯鉄路公司ニ對スル交渉
案件ノ移牒若クハ其他ノ文書通信等ノ取扱ヲ委嘱スル事ト
シ又在南昌高田商會出張員郡島忠次郎氏ニ南潯鉄路公司并
ニ南萍鉄道ニ關スル事件ヲ主トシ其他江西各地ニ於ケル諸
般ノ情形通信方ヲ委嘱スル事ニ致候處孰レモ其承諾ヲ得候
ニ付是又御承知置被下度候
右二件不取敢御報告申上置候

(欄外註記)

一 「調印後三ヶ月内ニ先三五〇万円ヲ交付ス残リ一五

〇万円ハ工事進行ニ伴ヒ十四ヶ月ヲ限リ全額交付ス

其故ニ五拾万円引渡請求權アルヤ否ヤハ工事進行程

度ニ依リ決スルノ外ナシ」

二 「當時滄滄中ノ古市、白岩両氏ニ対シ公司側ヨリ事

情ヲ説キ嘆願ノ結果不取敢十五万円丈台灣銀行ノ逆

為替ヲ打チ来リシモノナルヘシトノコトナリ(目下

土工進行中トノコト)

七〇三 八月二日 牧野外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛(電報)

南潯鉄道損害ニ関連シ我債權保護ノ為必要ナ

ル措置ニ付中國政府ニ申入方訓令ノ件

第三九二号

南潯鉄道ニ對シテハ御承知ノ通我ニ於テ借款關係ヲ有シ居

ル次第ナル処同鐵道ハ今次ノ騒乱ニ際シ工事中止及車輛建

物微発等ノ為非常ノ損害ヲ蒙リタル模様ニ付債權保護上相

當保護ヲ与ヘラレタキ旨東亞ヨリ願出アリ就テハ貴官ヨリ

右ノ次第ヲ支那側ニ申入レ東亞ノ債權保護ノ為出先軍事當

局者ニ於テ該鐵道財產ニ關シ意ヲ用フル様訓令アリタキ旨

ヲ要求シ且已往ノ損害ニ對シテハ追テ相當ノ措置アルベキ

義ト確信シ居ル旨ヲ申添ヘラル様致タシ

(附屬書)

東亞興業株式会社

社長 古市公威

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

写

八月五日在上海白岩取締役堯古市社長宛電文

江西鉄道工事ハ中止シ材料ハ取ラレ貨車客車機関車ハ微発

セラレ敷地倉庫ハ兵員ノ宿舎ニ充テラレ非常ニ損害ヲ受ケ

居ル旨報告アリ此假放任セハ更ニ多大ノ損害ヲ蒙ルノ虞ア

ル故此際債權確保上適當ナル保護方法ヲ取ル必要アルニ付

外務省ト相談ノ上可然御取計被下度シ

七〇四 八月六日 古市東亞興業社長ヨリ
牧野外務大臣宛

江西南潯鉄道損害ニ關シ債權保護ノ取計方願出ノ

件

附屬書 八月五日在上海白岩東亞興業取締役堯古市同

社社長宛電報

同右件

江西南潯鉄道損害ニ關シ在上海当社取締役白岩竜平ヨリ別紙写ノ通リ電報有之候ニ付テハ現在及将来ニ對シ當社債權

七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七〇四 七〇五

第六四二号

七〇五 八月十五日 在中國山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

南潯鉄道我債權保護ニ關シ舊外交次長ニ申入

七九九

貴電第三九二号ニ閲シ本使ニ於テ貴電「意ヲ用ユル様訓令アリタキ」迄ヲ覺書トシテ八月十四日曹外交次長ニ手交シ必要ナル説明ヲ加ヘタル上此際可成丈ヶ損害ヲ予防セサレハ他日支那政府ヨリ支払ハル可キ損害額増大スル訳ナレハ速ニ出先キ軍憲ニ対シ必要ノ訓令ヲ発セラレタキ旨要求シタルニ曹ハ好ク其意ヲ了シ早速陸軍総長ニ照会シ必要ナル

訓令ヲ發スル様可致旨言明シタリ貴電末段既往ノ損害云々ハ勿論ノコトニシテ特ニ之ヲ申添ユル時ハ何カ損害要償ノ根拠ニ疑義アルカ如キ感想ヲ先方ニ与フル虞アルニ付特ニ前文ノ通り取計ヒタル義ト御承知ヲ請フ

タルニ曹ハ好ク其意ヲ了シ早速陸軍総長ニ照会シ必要ナル

訓令ヲ發スル様可致旨言明シタリ貴電末段既往ノ損害云々ハ勿論ノコトニシテ特ニ之ヲ申添ユル時ハ何カ損害要償ノ根拠ニ疑義アルカ如キ感想ヲ先方ニ与フル虞アルニ付特ニ前文ノ通り取計ヒタル義ト御承知ヲ請フ

タルニ曹ハ好ク其意ヲ了シ早速陸軍総長ニ照会シ必要ナル

訓令ヲ發スル様可致旨言明シタリ貴電末段既往ノ損害云々ハ勿論ノコトニシテ特ニ之ヲ申添ユル時ハ何カ損害要償ノ根拠ニ疑義アルカ如キ感想ヲ先方ニ与フル虞アルニ付特ニ前文ノ通り取計ヒタル義ト御承知ヲ請フ

（附屬書）
阿部政務局長宛
大正二年八月十日
草 剖
東亞興業株式会社
社長 古市公威殿
拝復貴社益々御隆昌奉賀候陳者南北交戦ノ結果当地カ其巷トナリシニ就テ早速御叮囑ニモ御見舞ヲ蒙リ難有奉感謝候

中々ノ激戦ニシテ北軍數度九江ニ圧迫セラレ候モ遂ニ南軍ハ軍器ノ不完全ト弾丸ノ不足、兵數ノ不足ハ潰走スルノ余義ナキニ至ラシメ誠ニ残念ニ奉存候時々奇計ニヨリ北軍ヲ悩マセ居候モ大勢抗シ難ク南軍ハ敗走連発今ヤ各省独立取消ニヨリ孤立ノ姿トナリ李モ亦タ亡命ノ余儀ナキニ至ランカト存候

切而南潯鐵道損害ノ程度ニ付テハ早速御報導可致筈ノ處之

外務省

七〇六 八月二十一日 東亞興業株式会社ヨリ

阿部政務局長宛

附屬書 八月十日附在九江草刈台灣銀行出張所長ヨリ
古市東亞興業社長宛書信
南潯鐵道損害ニ関連シ日本側ニテ該線經營ニ付考慮アリタキ件

大正二年八月二十一日

東亞興業株式会社

カト存候

（別紙）

大正二年八月十日

九江出張所長

草 剖 融

總務部長

拝啓益々御清穆奉賀候

一、南潯鐵道損害ノ件

南北干戈ヲ交テヨリ北軍ハ九江ヨリ沙河駅迄ノ線路、南軍ハ沙河駅ヨリ江西鐵道終点タル德安駅迄ノ線路ヲ占領シ各々汽鑑車一台客車四五輛宛ヲ徵發シテ運搬用ニ供シ居ルコトハ前弊信ヲ以テ御報告申上候次第ニ有之候處戰爭區域ハ

何時モ鐵道線路ニ沿ヒ居ルコトトテ線路ノ破損モ多キモノノ如ク且ツ鉄道材料ノ紛失、賽湖駅ヨリ德安駅ニ至ル六個停車場内ノ器具什器掠奪（南北干戈ヲ交ルト共ニ鐵道員ハ迄テ掠奪シ去レリ）、九江去ル十三哩半万宜湾駅ト黃老門致度ク何卒予メ御講究ナシヲキ下サレ度ク願上候

損害ノ程度、今後ノ処置等ニ就テハ小生總務部長宛報告（別紙）御覽ノ上宜敷御取計願上候 以上

七 華中及華南鐵道交涉ニ閲スル件 七〇六

駅トノ間ニアル鐵橋ノ破壞（南軍退却ノ時爆薬ヲ以テ破壊

セントセシモ其効無カリシヲ以テ単ニ橋上ノ Rail ヲ取り外シタルノミト鐵道側ノ者ハ云ヒ居レトモ事実不明) 南軍ニ於テ使用セシ汽鑑車、客車、及ヒ貨車ノ破壊(南軍徳安ニ於テ敗レ遁走ノ場合ニ其使用ニ耐ヘサル様破壊シタルガ汽鑑車丈ハ其使用ヲ止メシ丈ニテ或重要部分ノ機械ヲ取り外シ其機械ハ機関師携帶シテ遁走シタリトノ事) 等此等損害額ハ可ナリ大ナル可シトハ鐵道員ヨリ聞込ミ居リ候得共鐵道側トテモ実地視察スル事ハ許サレサルニ付キ其價ニ打過キ居ルカ如ク小生モ亦其損害ノ程度ヲ具体的ニ承知致度ク存候モ趙協理ハ北軍九江着ト同時ニ漢口ヘ遁走シ今以テ帰還セス工務課長ハ之レ又タ何処カヘ姿ヲ隠シ居リ、技師長以下建築部員ハ工事中止ト共ニ經費節減ノ為メ全部解傭サレタル今日ナレハ何等捕捉スル所ナク困リ居リ候(鐵道ハ保線、營業ノ二課ヲ存続セルノミ) 然ルニ最早全線ハ北軍ノ占領スル所トナリ別ニ危險モナシト存候ニ付キ小生ハ東亜興業代理人ノ名義ニ於テ鐵路視察方第一軍長段芝貴ヘ交渉致居リ許可アリ次第八木書記生ト共ニ Hand car ニヨリ徳安ニ至ル線路ヲ視察シ具体的ニ其損害程度ヲ調査スル考ニ御座候兎ニ角損害程度相分リ候迄ハ借款残金一文タリト

モ御渡ナキ様願上度ク且ツ此機會ニ於テ日本側ノ希望スル如ク監督者、技師長等ノ入社ヲ強要シ全ク日本側ニ於テ經營スル事ニ致度候今回ノ損害ハ南潯鉄道ニ對スル致命傷ト存候ニ付キ總テノ問題予メ御講究ナシ置キ下サレ度候南北軍ニテ鐵道ヲ兩断シ各々汽鑑車、貨車、客車等ヲ徵發シテ使用スルコトヽナリシ當時南北兩軍側各々其使用料トシテ毎日弐百弗宛ヲ支払フ可キ旨約束セシ由ナレトモ兩軍共未タ一文ノ支払ヲナサヽルノミカ鐵道側ニテハ軍隊ヲ恐レ一言モ其請求ヲナサス小生ハ此等賃貸料ト其損害等ニ付テハ予メ両軍ニ請求シ置ク可キ事再三忠告シタレドモ鐵道側ハ軍隊ノ感情ヲ害サンコトヲ恐ル、モノノ如クドードモ宣敷等弱音ヲ吐キ居候先ツ此分ニテハ両軍ニ滅茶々々ナル、併ニ拋擲スルモノノ如クニ候就テハ此等請求ハ日本人カ代ツテ之レヲナサヽル可カラストモ存候

追而趙協理ハ国民党ニ籍ヲ有シ李烈鈞、彭程万等トハ親交ノ間柄ナリシカハ北軍九江着ト共ニ身ノ危險ヲ恐レ漢口ヘ遁走シ居リ偶々所用アリテ先般北京ニ行キシ所袁世凱ヨリ捕縛セラレ將ニ獄ニ投セラルヽノ運命ニ立至リソ所其伯父ニ当ル趙從蕃(袁派ノ人ニシテ嘗テ江西民政長ニ任命サレ

タル人)ノ保証ニヨリ解放サレ今ヤ漢口日本居留地内日本旅館松廻家ニ家族ト共ニ宿泊シ居リ大ニ北軍ヲ恐レ居候ニ付若シ北軍カ江西ヲ征服シ南昌ニ於テ天下ニ号令スルニ至ラハ趙ハ其位地ニ留マル事能ハサル可ク之レニ反シ予テヨリ李烈鈞ト反目シ袁ニ秋波ヲ送リ媚ヲ呈シ居リシ陳三立、羅朗山一派ハ再ヒ勢力ヲ得ル事トナル可ク或ハ日本ノ為メ好都合カトモ存候

同鉄道ニ關シテハ後日詳細御報告可申上候

右奉得貴意候也

七〇七 九月一日

(牧野外務大臣ヨリ
在漢口芳沢及在上海有吉各總領事宛)

南潯鉄道ニ對スル我債權保護ニ關スル件

政機密送第八〇号(上海宛)

各通

南潯鉄道ニ對シテハ御承知ノ通リ我ニ於テ借款關係ヲ有シ

居ル次第ニ有之候處同鉄道ハ今次ノ騒乱ニ際シ工事中止及

車輛建物徵發等ノ為メ非常ノ損害ヲ蒙リタル模様ナル趣ヲ

以テ右債權保護方東亜興業会社ヨリ願出候ニ付八月十二日

在北京山座公使ニ對シ前記ノ次第ヲ支那側ニ申入レ同國政

七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七〇七 七〇八

七〇七 九月一日

(在漢口芳沢總領事ヨリ
牧野外務大臣宛)

南潯鉄道工事進捗方ニ關スル件

附屬書

八月三十日附八木書記生ヨリ芳沢總領事宛機密第百号写

南潯鉄道工事再開ニ關シ鐵路公司及東亜興業

代表者会合方幹旋ノ件

(九月十五日接受)

機密第一六八号

大正二年九月四日

在漢口

外務大臣男爵 牧野伸顕殿 総領事 芳沢謙吉（印）

江西鐵道ノ工事進捗方ニ關シテハ客月十五日付公信第三一

四号及同二十二日付機密第一六二号拙信ヲ以テ申進置候次第有之候處今般更ニ在九江八木書記生ヨリ別紙写ノ通リ申

越候ニ付不取敢往電第三〇六号ヲ以テ東亜興業会社ヨリ委員派遣方稟議及置候次第ニ有之右ニ對シテハ既ニ何分ノ御

詮議相成リ候事ト存候查スルニ今次ノ事変以来江西省ニ於ケル中央政府ノ権力從来ニ比シ漸次強烈ト成リ行クハ自然

ノ趨勢ニ有之候処現下江西鐵路公司ノ總理協理等ヲ始メ責任アル者ハ何レモ逃走シテ帰任セザル為メ差當別紙記載ノ

工務課長張毅ヲ除テハ他ニ適當ナル同公司代表者無之モノノ如クニ有之候ニ付同人ヨリ申出アリタルヲ幸ヒ該鐵路ニ

対シ中央政府ガ未ダ確乎タル措置ニ出デザル今日ニ於テ速ニ白岩又ハ其他ノ適當ナル人物ヲ九江ニ派遣シ同人ト協議ヲ開カシメ以テ中央政府ノ干渉甚シカラザル以前ニ得出来丈ヶ利權ヲ獲得シ置クコト得策ト認メラレ候尚ホ如何ナル

利權ヲ獲得スペキヤニ闕シテハ予テ東亜興業ニ於テ具体的条件トシテ先方ニ提出スペキ条件等考慮中ノコトニモ可有段芝貴ヨリ北京ニ電請セル結果北京交通部ハ工務課長タル張毅ニ對シ總理及協理代理トシテ公司代表者タルベキ旨任命電報ヲ發シテ脅迫サレタルモ張ハ其重任ニ堪ヘズトテ辭退シ唯公司ノ利益上工事ノ進行ニ付テハ全力ヲ尽スベキ旨回電セル由ナリ

一、趙協理ハ尚漢口ニ在リテ帰任ノ意ナキガ如ク總理吳鈞ハ南昌ニテ江西軍官ノ為メ鐵路公司資金ノ融通ヲ求メラレ短銃ヲ擬シテ脅迫サレタルコトアリ恐怖シテ鄉里撫州ニ帰リ公司ヨリハ數回人ヲ派シテ帰任ヲ請ヒタルモ応セズ南昌ニハ董事二三名アルモ公司ノ事務ハ全ク放擲サレアリ云々仍テ小官ハ張ニ對シ目下公司ノ狀態ニ顧ミ工事ヲ速ニ進行セシメントスレバ公司側ニ於テ代表者ヲ作リ東亜興業側ト篤ト協議ヲナス必要アリ而シテ右代表者トシテ交通部ヨリ電報モアリタリト云ヘバ貴下自ラ之ニ当ラレテハ如何ト懲

通致候處同人ハ既ニ考慮シ居リタル如ク直チニ決心シテ南昌ニアル公司側董事ニ對シテハ人ヲ派シテ相談シ其委任状ヲ得ルカ或ハ董事ノ一名ヲ代表者トシテ九江ニ來ラシムベキカニ付東亜興業会社ニ於テモ公司ノ実情ヲ見協議ヲナス為メ目下上海ニ在ル白岩氏其他適當ノ人ヲ任命シテ九江ニ

之ト存候ニ付別紙記載ノ八木ヨリ考慮ヲ求メ來レル第二点内八木ノ見込以外別ニ卑見電票不致リシ次第ニ有之候此段申進候 敬具

（附屬書） 写送付先 在支那公使

写 機密第百号

（附屬書） 写

大正二年八月三十日 在九江

外務書記生 八木元八

在漢口

総領事 芳沢謙吉殿

江西鐵道工事再開ニ關シ鐵路公司及東亜興業

代表者会合方斡旋ノ件

南潯鐵路工事再開ニ關スル卑見及公司側内情ハ本月十五日付機密第九四号及第九五号ヲ以テ及報告置候處昨二十九日鐵路公司張工務課長ニ面会セル處張ハ大略左ノ談話セラレタリ

一、南潯鐵路公司ハ重ナル責任者逃避シテ帰任セザル為メ

七 華中及華南鐵道交涉ニ関スル件 七〇九

八〇六

附屬書 九月十五日附右覺書写

附記 九月二十九日白岩氏ノ外務省係官ニ対スル談話要領

一、本件協議ノ為メニハ張及代表者ヲ上海ニ赴カシムル事出来ベキモ張等ハ九江ニテ右協議ヲ為サン事ヲ希望シ居レリ是レ上海ニ在ル江西人ガ例ニ依リ容喙シ「ゴンミッショソ」ノ分配ヲ要求サル、ヲ恐レテナラン且ツ東亞側ニ於テモ実際情況ヲ見協議ヲナス事必要ナルベシ上海ニ

在ル羅朗山ノ協議ニ加ハルハ張等是ヲ希望セザル様ナルモ東亞ニテ必要アラバ同人ヲ代表者ノ一人トナスモ強テ

故障言ハザルベシ

一、本件ニ關シテハ東亞興業九江代表者タル台灣銀行草刈支店長トモ協議済ミニシテ同氏ヨリハ白岩氏ニ通知ス可キモ尚貴官ヨリモ東亞興業会社ニ対シ可然御勧告アリタキ旨依頼サレタリ

右及上申候 敬具

七〇九 九月十七日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

南潯鐵道ノ損害善後策及工事進捗ニ關シ鐵路

公司及東亞興業両代表者調印ノ覚書写送付ノ件

一、南潯鐵道公司ノ蒙リタル時變ニ基ク損害ト其善後策及ヒ今後ノ工事進行方ニ關シ東亞興業会社代表白岩竜平河野久太郎江崎真澄鐵路公司代表趙世瑄羅兆棟間ニ於テ別紙写之通覽書ヲ作製シ九月十五日於當地調印ヲ了セル趣届出有之候間右写御参考迄及提出候 敬具

外務大臣男爵 牧野伸顕殿
南潯鐵道公司借款ニ關スル件

一、南潯鐵道公司ノ蒙リタル時變ニ基ク損害ト其善後策及ヒ今後ノ工事進行方ニ關シ東亞興業会社代表白岩竜平河野久太郎江崎真澄鐵路公司代表趙世瑄羅兆棟間ニ於テ別紙写之通覽書ヲ作製シ九月十五日於當地調印ヲ了セル趣届出有之候間右写御参考迄及提出候 敬具

外務大臣男爵 牧野伸顕殿
南潯鐵道公司借款ニ關スル件

外務大臣男爵 牧野伸顕殿
南潯鐵道公司借款ニ關スル件

一、南潯鐵道公司ノ蒙リタル時變ニ基ク損害ト其善後策及ヒ今後ノ工事進行方ニ關シ東亞興業会社代表白岩竜平河野久太郎江崎真澄鐵路公司代表趙世瑄羅兆棟間ニ於テ別紙写之通覽書ヲ作製シ九月十五日於當地調印ヲ了セル趣届出有之候間右写御参考迄及提出候 敬具

外務大臣男爵 牧野伸顕殿
南潯鐵道公司借款ニ關スル件

覺書

寫

少ニ關シテハ鐵路公司ノ責任ヲ以テ速ニ善後策ヲ講スルモノトス

一、鐵路公司ハ未成工事並ニ損害復旧工事ヲ完全ニ促進スル為メ東亞興業会社ニ全部委任スルモノトス但已ニ請負工事契約分ハ此ノ限ニアラス又工事速成廉価ノ場合ニハ顧問技師ノ相談ヲ經テ自辦スルコトアルベシ

三、右工事ニ要スル資金ハ先ツ鐵路公司ノ預託金ヲ以テ充当シ其不足金額ハ東亞興業会社ニ於テ調辦シ直ニ公司ノ債務ニ繰入ル、モノトス

四、鐵路公司ハ東亞興業会社ノ推薦ニカヽル顧問技師並ニ會計監督ヲ聘用シ工事並ニ會計ニ關スル諸般ノ事項ヲ協議決定スルモノトス但前項ノ顧問技師並ニ會計監督ニ關スル詳細ハ別ニ契約ヲ結フ

五、此覺書ハ双方調印当事者ニ於テ双方總公司ノ承認ヲ経て確定寒行スルモノトス

六、若シ右条件中双方ノ總公司ニ於テ異議アル時ハ更ニ双方大正二年九月十五日
中華民國
（右漢文）

七 華中及華南鐵道交涉ニ關スル件 七〇九

八〇七

九月二十九日白岩東亞興業取締役ノ外務省係官ニ対スル
大正二年九月十五日
中華民國
（附記）

九月二十九日白岩竜平氏來訪ノ節南潯鉄道新借款問題ニ関スル談話ノ要領

(一) 嘉總理上海ニ來ラサリシヲ以テ趙世瑄、羅兆棟ヲ対手トシテ会商（南潯鉄路公司ハ今尚商辦タルカ故ニ中央政府ハ溢リニ張工務課長ヲ公司代表者ニ任命シ得ヘキ筋合ニ

非ス右任命云々ノ件ハ動乱當時独り踏止マリテ公司ノ事務ヲ處理シタル張ニ対スル段芝貴ノ好意的取計ニ出テタルモノニ過キサルヘシ）白岩氏ハ公司内部ノ不統一ヲ指

摘シ将来幾分面目ヲ改ムルヲ得スンハ五百万円借款ノ残額百万円ノ交付ヲモ尚躊躇セサルヲ得サル旨多少高圧的

ニ説示シ新借款ヲ機トシ技師長、会計主任ノ傭聘方ヲ主張シタルモ結局顧問技師及会計監督ヲ入ル、コトニ折合ヒ又工事ハ全部東亞ニテ請負フコトトセリ

尚覚書第五、第六両項ニ付テハ斯クテハ結局本覚書ハ空文ニ帰スル虞アルニ依リ当事者双方共ニ本覚書ヲ其保本店ヲシテ承認セシムル様極力尽力スヘキコトヲ約シタリ又新借款ハ之ヲ請負契約ノ形トナスコトハ別ニ話頭ニ上ラス矢張リ旧借款ノ引続的ノモノトナスコト、成リタルモノナリ

ヲ藉リテ工事ノ進行ヲ計ラントスルモノ、如シ

(四) 尚覚書第二項ノ但書請負工事云々トハ已ニ契約済ノ大倉

分其他ヲ指ス從テ新借款成立ノ上ハ新借款分ハ勿論五百

万円借款ノ残額百万円ニ付テモ東亞ハ請負工事全部ノ委任ヲ受クルコト、ナル次第ナリ

(内) 右商議ノ節白岩氏ヨリ南萍線ヲ南潯鉄道会社ヨリ省議会

ニ附議セントヲ懲諭シタリトノコトナリ

(五) 本間技師ハ支那側ノ信用厚キカ故ニ病間モ依然同技師ヲ其眞トナン置キ不取敢別ニ嘱托技師ヲ派遣シ五百万円借款ニ依ル工事ノ監督ヲナサシムルコト、ナルベシトノコトナリ

七一〇 十月一日 牧野外務大臣ヨリ

在上海有吉總領事宛（電報）

南潯鐵道国有化及南萍線白耳義借款二付真相
禁止メ方訓令ノ件

第九九号

東亞興業ヘノ來電ニ拵レバ九月二十八日ノ南潯鉄路公司總

会ニテ同鉄道ヲ國有トスルタメ總理ヲ北京ニ派遣スルコトヲ議決シ又南萍線白耳義借款説モ再燃ノ模様ナル趣ニ付右

七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七一〇 七一一

因ニ云フ當時趙、羅両人ハ正当ニ公司ヲ代表シテ商議スルモノナル旨言明シタリ

(二) 新借款ノ入用額ハ追テ東亞ヨリ上申スヘキガ大要

(イ) 百万円 五百万円借款ノ残額

(ロ) 五十万円 復旧工事用

(ハ) 二百万円 第二区第三区完成工事用追加額

ノ割宛トナルカ故ニ新借款額ハ二百五十万円内外トナル

ヘシ

而シテ新借款ハ矢張リ旧借款通リノ担保トナスヘク別ニ顧問技師、会計監督傭聘契約締結ノ際顧問技師ハ鐵道完

成後モ当分技師トシテ引続キ傭聘セシメ又会計監督ニハ業務上ノ事ニモ通シ居レル者ヲ入レ結局業務顧問ノ如キモノトナス積ナリ

(三) 新借款金額ノコトハ追テ東亞ヨリモ意見上申ノ筈

(四) 趙世瑄ハ国民党故江西ニ袁世凱ノ勢力大ニ加ハラサル先キ新借款ヲ纏メ日本側ノ勢力ヲ大ニシテ以テ自己ノ地歩

ヲ堅メンコトヲ欲スルモノニテ又他ノ公司当事者モ内部不統一ノ結果会計部ト工務部トノ意志合致セサル為寧ロ日本側ヨリ会計、工務ノ指導者ヲ入レ日本側ノ圧迫ニ辞

真相突止メ電報アリ度シ

右訓令トシテ漢口ヘモ転電アレ

七一一 十月一日 在漢口芳澤總領事ヨリ

牧野外務大臣宛（電報）

南潯鉄道工事進捗ニ關スル覺書不承認ノ件

第三八一号

八木（九江）來電

第一七九号

南昌新聞ニ依レハ九月二十八日江西鉄道公司株主總会ニ於テ協理趙世瑄辭職スルコトナリ東亞興業トノ覺書ハ承認セラレス尚九月二十九日引続キ総会ヲ開キタル筈ナルモ其ノ結果判明セス當地鉄路公司ニハ何等報道ナシ

ノ第三八三号

在上海總領事宛貴電第九九号ニ關シ南潯鉄道總会ハ南昌ニ於テ開カレタルモノニシテ他ニ差向キ取調ヘノ方法ナキニ

八〇九

付不取敢八木ニ相当電訓シ置キタル処左ノ通り來電アリ尚ホ引続キ注意方申遣シ置キタリ

八木来電第一七〇号

九月二十九日総会ノ結果ハ吳總理北京ニ赴キ滬寧鉄道ノ標準条件ヲ以テ国有ノ運動ヲ為スコトニ決議シ九江工程局ハ審査員ヲ設ケテ帳簿ヲ検査シ改良ヲ加ヘ工事ハ出来得ル限り進捗セシムルコトナリタリ南萍鉄道白耳義借款意見ヲ右總会ニ提議シタル者アルモ何等決議ヲ見ス又具体的ニ資本家ト協議ヲ始メタル次第ニハ非ラサル如シ今回ノ変動ハ李烈鈞失脚ニ依リ從来ノ不平党勢力ヲ得来リタル結果ニシテ暫クハ紛擾続出スペク我ニ不利ナル運動盛ンナルニ至ルヘシト観察ス

七一三 十月六日 在上海有吉總領事ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

南潯鉄道ノ国有化問題等ニ関スル件

第三〇三号

貴電第九九号ニ關シ關係筋ニ達シ居ル報道ニ依レハ南潯線國有ノ議ハ總会ニ於テ葉ナル一株主ノ發議ニ係リ政府カ全株券ヲ現金ニテ買上ヲ条件トセルモノニシテ單ニ國有ヲ可

漢口済
メ居ルモ右一應申進ス

七一四 十月十日 在中國山座公使宛

南潯鉄道工事進捗ニ関スル覺書等ニ付通報ノ件

政機密送第二八七号

南潯鐵道ハ未タ九江徳安間ノ開通ヲ見タルノミニシテ更ニ德安南昌間ノ第一、第三両区ノ工事費並ニ第一革命戰乱ニ

ヨリテ已設区间ニ蒙リタル損害復旧工事ニ多額ノ資金ヲ要スルモ御承知ノ通リ同公司ハ已ニ其工事資金ノ大部分ヲ消費シ尽シタレハ別ニ資金ヲ調達スルニ非ラサレハ到底前記工事ノ遂行ヲ期スル能ハサルノ事情ニテ義ニ同公司側ヨリ

東亞興業会社代表者白岩同社取締役ト公司側ノ

機密第八二号
大正二年三月七日

在清国

同ニ付周學熙及小田切間会談内容報告ノ件
特命全權公使 伊集院彦吉（印）

外務大臣男爵 牧野伸頤殿

近頃當國新聞紙上ニ寧湘鉄道即チ南京ヨリ安徽省ヲ通シテ湖南省長沙ニ到ル鉄道ノ計画ニ關シ中央政府ニ於テ之ヲ經營敷設セシコトヲ安徽人ヨリ請願セル旨ノ記事ヲ掲載シアリタルカ小田切取締役ハ予テ周學熙ト同地方ノ鉄道事宜ヲ相談セシ關係アルヲ以テ三月五日他用ヲ以テ周學熙ニ面会シタル節右鉄道ニ關スル新聞記事ノ實否ヲ問ヒ質シタルニ周ハ右鉄道計画ハ安徽人李經義楊士琦及自分（周ハ安徽人ナリ）等相談ノ結果大体ニ於テ意見ノ一致ヲ見タレバ請願書ヲ中央政府ニ提出シ國務院ノ議ニ附セラルコトトナリタルモノニシテ現ニ右請願書ハ國務院ノ桌上ニ在リ該院ニ於テモ主義トシテ大体右ノ計画ニ異存ナキ模様ナルニ付キ多分可決セラルコトトナルベク愈々可決ノ暁ニハ之ヲ交通部ニ交附シテ寒地ノ計画ニ着手セシムルコトトナルベシ

註 別紙ニ付テハ前掲七〇九文書附屬書參看

四 寧湘鉄道

七一五 三月七日

在中国伊集院公使ヨリ
牧野外務大臣宛

寧湘鉄道國營問題並該事業資金供給ノ日英協
七 華中及華南鉄道交渉ニ關スル件 七一五